



EVENT

イベントのお知らせ

お出かけ前に最新の情報をHPなどで必ず確認してください。

まちライブラリー HP machi-library.org/

大阪 森ノ宮

4/29(木祝)～5/5(水祝)

もりのゴールデンウィーク ～まちライブラリーで楽しもう！～

まちライブラリー@もりのみやキューズモール

まちライブラリー@もりのみやキューズモールの本を使って行う本紹介や音楽イベント、手作りワークショップ、椅子ヨガ、英語絵本の読み聞かせなど盛りだくさん！「まちライブラリーのここが好き！」メッセージも募集します。(オンライン参加可)

大阪 吹田

6/5(土) まちライブラリー@シエリアシティ千里山を楽しもう！

シエリアシティ(分譲マンション)のコミュニティHUB(共用棟)にまちライブラリーが誕生。3000冊の本に囲まれた空間を「どんな場にしていくなか、何をしたいか」みんなで考えるイベントです。

第1部：まちライブラリーを知らう(磯井純充の講演)

第2部：みんなの時間～本で自己紹介これからのことを語ろう～ ※各回先着順

New! まちライブラリーの紹介

新たに仲間入りした各地のまちライブラリーです。

開館日時など詳細は、まちライブラリーHP「まちライブラリーに行こう!」で検索できます。

(No.は登録番号です)

NO. 821 (愛知 一宮)

雑誌図書館 よみかけ文庫【6月下旬オープン予定】

「よみかけ文庫」は雑誌図書館&コワーキングスペースです。貸出は行っていませんが、カルチャー誌をメインに数千冊ほどの雑誌を閲覧いただけます。また年に数回、「皆友の寄り友」と題したテーマ型の座談会の開催も予定しております。

・Web: <https://yomikake.jp/>・Facebook: <https://www.facebook.com/yomikakebunko/>
・オーナー: OTANCHIN <https://otanchin.jp/>

NO. 815 (北海道 千歳)

えほんらいぶらりー千歳

北海道千歳市に人と人が交流できる「ちいさな隠れ家」と親子で楽しめる「絵本部屋」として開設します。イベントも開催していきます。気軽に遊びに来てください。

・Facebook: <https://www.facebook.com/sachie.nemoto.39>
・オーナー: 根本幸枝

NO. 827 (千葉 千葉)

まんなかライブラリー

千葉市を中心とした「まんなかライブラリー」は、参加店のどの店舗でも自由に本の貸出、返却が可能です。本を片手にお店巡りしてみませんか。また、同時に参加店様も募集しております。

・Facebook: まんなかライブラリー
・オーナー: aller & yummy

NO. 828 (大阪 大阪市生野区)

生野長屋大学ぼんぼキャンパス内 まちライブラリー

長屋をリノベーションしてきた多世代交流や学びの居場所の中に、本でつながる交流を目指してまちライブラリーを開設しました。定期的にビブリオトークや映画上映会、遊びから学びを得るボードゲームを中心とした活動や体験型イベントなどを開催します。

・Instagram: https://www.instagram.com/ikuno_ponpoko/?igshid=1w6z4j0w5oh4z
・オーナー: ネメシュ仁美

NO. 829 (徳島 徳島)

SIL/シル まちライブラリー

徳島市佐古七番町 SIL/stand をベースに活動しています。SILトラックにたくさんの本と食と居場所をまるごとのせて県内外各地をまわります。たくさんの子もたち、おとなたちが本を通じて知る・繋がることを願っています。

・Instagram: <https://www.instagram.com/silsilsilsil/>
・Facebook: <https://www.facebook.com/1106.art.work>
・オーナー: 四つ葉

NO. 831 (静岡 浜松)

新川企画舎まちライブラリー

浜松を、いつ誰が訪れても居場所のあるまちにしたいと想い、活動をスタートしました。BookCaféのオープンや読書会などのイベントも開催。本を多様な形で楽しめます。新しい本に出逢える場所としても、多くの人に楽しんでいただける居場所を創っていきます。

・Facebook: <https://www.facebook.com/shinkawa.kikakusha/>
・Instagram: <https://www.instagram.com/shinkawa.kikakusha/>
・オーナー: 新川企画舎

NO. 832 (福岡 新宮町)

まちライブラリー@禁BASE

2020年に古民家を改修してコミュニティハウス・カフェをオープン。ワンディシェフのランチや勉強会、それぞれの得意なこと、やってみたいことを実現できる場所にしたと思っています。まちライブラリーを通して人とのつながりが生まれると嬉しいです。

・Instagram: <https://www.instagram.com/fumotobase/>
・オーナー: 鳥井田奈々

NO. 833 (北海道 苫小牧)

まちライブラリー法華寺

お寺の中にあるライブラリーです。赤ちゃんから小学生まで楽しめる絵本や漫画、大人の趣味の本や宗教に関する本も沢山あります。こわあ〜い本もありますよ。駐車場もいつでも空いているので使って下さいね。

・Web: <http://hokkeji.org/>
・オーナー: 法華寺 小松智彦

NO. 834 (三重 いなべ)

まちライブラリー@kinari

木造の旧校舎(国登録有形文化財)を利用したカフェ「桐林館喫茶室」の中にある「筆談カフェ」です。“音声オフ”の自然音だけの静かな空間で、美味しいコーヒーと本を味わいませんか? 手話や聴覚障害に関した本も揃えています。

・Web: <https://www.torinkan.com/>
・Facebook: <https://www.facebook.com/kinari.iroiro>
・オーナー: 一般社団法人 kinari

本が引きつける人と時代

まちライブラリーは2021年3月、開始から10年を迎えました。2011年4月1日からの累計では、全国に広がったまちライブラリーは849か所（4月20日現在）になっています。

10年を振り返り、すべてのまちライブラリーの情報を今、改めて見なおしています。蓄積された登録データを整理し、すべてのライブラリーの情報を収録した大図鑑の制作を試みています。

初めの一步を踏み出したばかりの頃に、私が直接うかがって開設のお手伝いをした思い出深いまちライブラリーがある一方で、年を追うごとに、この活動に賛同し参加してくれる人が増え、登録の時にお話をうかがったまま、お訪ねする機会もなく、それぞれのライブラリーのことを知らずに今日まで過ごしてきてしまった面もあります。今一度、一つひとつのまちライブラリーを整理しながら、全体を見渡せる図鑑にまとめてみたいと思っています。

そうした思いを抱くなかで、昨年末より準備を進めていたのは、長野県茅野市の「まちライブラリー@My Book Station 茅野駅」です。ここは2020年11月に本棚が完成し、開設に向けて大阪の「まちライブラリー@もりのみや

キューズモール」や東京の「まちライブラリー@南町田グランベリーパーク」、北海道の「まちライブラリー@千歳タウンプラザ」から本を移動してきました。惜しまれつつも3月末に閉鎖した「まちライブラリー@千歳タウンプラザ」は、約2万4千冊の蔵書を各地の拠点に分割して配架することになり、茅野のまちライブラリーにもたくさんの本が届きました。

茅野の真新しい本棚で、本の配架作業をしていると、熱心にある本をノートに書き写しているシニアの男性に出会いました。「ここにある本は借りて行かれますよ」と私がお声かけしたところ、「ここで書き写すのがとても心地よいし、自宅より落ち着くからここで書き写したいんです」と言い、毎日足を運んでおられるとのこと。その方が読んでいたのは、柴田とよさんの『くじけないで』（飛鳥新社）でした。「この本、とっても感動するんだよね…」と、一文字一文字味わいながら書き写しておられました。また、好きな詩があり、その詩を読むたびに涙が出るんだとも…。

その方は数年前に癌に襲われて、医師からは治療が難しいステージだと告げられたそうです。しかし諦めることなく、自分なりの努力で生活や食事の改善を続けた結果、元気に生活できるようになり、今では同じような境遇にある人に

治療や生活改善の仕方をアドバイスしているのだとか。そんななかで、まちライブラリーに来ることを生きがいにしていると話してくださいました。人を毎日通うほど惹きつける一冊も、大阪や東京、北海道から来た本なのだとふと気付くとき、読み継がれることで次の誰かの勇気を喚起させる本の力を改めて感じたのです。

千歳のまちライブラリーから茅野へ運ばれてきた本のなかには、生誕百年記念の「夏目漱石全集」（日本ブック・クラブ刊）や「宮沢賢治全集」（筑摩書房）、「昭和万葉集」（講談社）などの素晴らしい全集もありました。

「昭和万葉集」は、年代ごとに編集されており、昭和金融恐慌や二・二六事件、太平洋戦争、1964年の東京オリンピックなどの出来事と共に歌を味わうことができます。読んでみると、当時も今も人は変わらないような感性で生きていることがわかり、その頃の危惧がその後の歴史を知っている者からすると、我々が現在翻弄されている社会情勢と合一するようにも思われ、ある意味で感動もし心配もする、そんな感想を抱きました。茅野の本棚整理は、本は時代を超えて人の思いを届けられる、ということを身に沁みて感じる機会となりました。

今後まちライブラリーが各地に増えていく

と思いますが、運営者それぞれの想いと共に著者や寄贈者の想いも、地域や時代を超えて届けられる場になることを望んでいます。

私自身は今、まちライブラリーのことやブックツーリズムのことなど複数の本を執筆中ですが、多くの人に読んでもらいたいという気持ちもありますが、時代を越えて「この本が必要だった」と言ってくれる人に届くよう、丁寧に書き進めたいと思っています。まちライブラリーの10年が、次の10年、50年、100年へと、活動の形は変わっても、その時代に生きた一人ひとりの人の人生の片鱗を伝えるものになればと考えています。改めてお話を聞かせていただく方もいると思いますがよろしく願います。また、取材してほしいというまちライブラリーオーナーの方からのご連絡もお待ちしております。

2021年5月

まちライブラリー提唱者 磯井純亮
連絡先 mail : MSJ00657@nifty.com